

# 「<sup>お</sup>上山城<sup>ろ</sup>」からのたより 晩夏・第170号

## 上山ゆかりの建築家

## 佐野利器としかた

(公財) 上山城郷土資料館学芸員 長南伸治

神奈川県・東京を中心に関東地方に大きな被害をもたらした「関東大震災」発生(大正十二(一九二三)年九月一日)から、今月でちょうど百年の節目を迎えます。同震災により十万人以上の命が失われ、さらに、多くの街が一瞬にして廃墟と化しました。

その後、国を挙げて復興事業が行われていきますが、その事業に携わった人物の一人に、上山ゆかりの建築家 佐野利器(一八八〇―一九五六)がいます。

利器は明治十三(一八八〇)年に、山形県荒砥(現白鷹町)の山口三郎兵衛の四男として生まれ、米沢中学(現山形県立米沢興譲館高校)在学時、上山町に住む佐野家の養子となり、その後、旧制第



鎌倉の自宅にて、穏やかな表情の佐野利器を浮かべ晩年の写真(個人寄贈) (企画展展示予定)

二高等学校から東京帝国大学建築科に進学。耐震建築の研究に取り組み、大正四(一九一五)年、「家屋耐震構造論」で工学博士号取得し、同七年に同大学の教授に就任。以後も日本大学、東京工業大学・清水組(現清水建設など活躍の場を移しつつ、日本の建築界をリードした人物となります。

その利器は、関東大震災後、国が設置した帝都復興院のメンバーに選ばれ、そこで地震や火災に強

い鉄筋コンクリート造りの建物の普及推進に尽力しています。つまり、利器は今や当たり前ともいえる「地震に強い建物」の基礎的な理論を日本で初めて提唱し、さらに、その普及にも努めた人物となります。言うまでもないことですが、その功績は非常に大きく、現在に至るまで高い評価を受け続けています。

上山城では、その佐野利器の「業績」や「人となり」を紹介する企画展を今月三十日から十一月二十六日まで開催します。関東大震災から百年目の今日、耐震構造理論の祖 佐野利器の人生を探ってみてはいかがでしょうか。みなさまのご来城をお待ちしております。

【常設展示室から】抽選で景品が当たる。クイズ上山城探検を毎月実施中。クイズを解きつつ、ご見学をお楽しみください。